

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3271600524
法人名	有限会社 ピュアライフ 島根
事業所名	グループホーム 暖談
所在地 (電話番号)	島根県出雲市大社町遥堤666 (電話) 0853-53-5303

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	平成19年7月10日	評価確定日	平成19年8月9日

【情報提供票より】(19年6月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 7.2 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有(100000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日あたり 1300円			

(4) 利用者の概要(6月6日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	上野医院 藤江歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

[笑]をモットーとして笑顔で暮らせる支援をめざし、入居者の希望に沿うケアに取り組んでいるホームである。昨年は自宅で終末を迎えたいという思いを汲み取り、とまどいや困難をのりこえ、チームで看取りを行なった。その経験は、職員一人一人の思いに向き合う意識が高まり、入居者・家族の思いを聞きながらの自立支援に生かされている。また、併設のデイサービスとの交流は入居者の活動を広げている。夫婦で暮らせる二人部屋は、流し台もおかれ自宅のような空間となっておりくつろいだ生活をされていた。窓からみえる北山と走る電車は郷愁を誘う。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 分かりやすい理念を策定し、職員で話し合つて作成し、玄関に掲示した。記録については、日々改善に努めている。職員の研修は内部の研修や勉強会は定期的に行われているが、外部研修が参加したいができない状況がある。ホームの全職員の会議は行っていないが、毎日のミニカンファレンス、朝礼時、終礼時には話し合っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 最初に管理者を除いた職員で、各項目について話し合い記入したものを、管理者がまとめた。すべての項目に取り組んでいきたい内容を検討している。年間計画や重点項目の検討を期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、定期的開催されている。救急法の講習・権利擁護事業など専門職の講師を招いて職員とともに勉強会をしたり、最近災害の経験をされた話を聞いたり、ホームからの報告や地域の方からの質問や意見・要望を話し合ったりしている。地域からは毎回2名づついろいろな方が参加されている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月のお手紙・計画した行事のとき・家族の面会時には、問いかけて何でも言ってもらうように働きかけている。意見は話し合い運営やケアに反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会には加入しており、運動会・文化祭にも参加している。敷地内の畑で作業しているとき、作物の作り方を教えて頂くことはあるが、日常的に挨拶を交わしたり、話をする機会は少ない。入居者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を載せた広報誌を配布し、地域との交流を深めていく方針であり期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い事業所の理念とは別にホームの理念も作成している。笑顔でくらせるケアを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念について職員に話し共有している。毎日のミーティングでは具体的なケアについて話し合っている。入居者が元気が無くなったりした時には、前後のかかわりを振り返り、理念に基づいたケアをするように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入している、運動会や文化祭に参加している。地域の方との交流はまだ充分ではないが、運営推進会議で、顔が分かる関係ができ、声がかかけ易い関係が増えている。	○	入居者が地域の中で笑顔で暮らし続けていけるよう、ホームの理念やケアを理解してもらい取り組みとして、広報誌を作成し配布したいと考えられており期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	最初は管理者を除く職員で各項目について話し合い、それを元にして管理者はまとめをしている。全項目について日々のケアの取り組みが記入されている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて話し合っている。	○	日々のサービス向上に向けた取り組みの話し合いはされているが、重点的に、計画的に、課題が具体化できるように取り組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回第4日曜日に開催している。地域からは毎回2人ずつ多くの方の参加がある。家族・交番の方・市の担当者の方などと、ホームの報告や意見・要望を話し合っている。また職員も参加して、救急法・人権擁護など講師を招いた勉強会もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員とは、困ったことや聞きたいことなど相談できる。運営推進会議での発言に助けられている。実際に災害の経験をされ、地域の方のお世話になり、地域との交流の大切さを話して頂いた事は、よい教訓になっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料の領収書や請求書・受け持ち担当者からの手紙・最近の様子わかる写真もおくっている。地元の方が多いので面会が多い、面会時や行事の時に日頃の様子を話している。遠方で、盆と正月の面会になる方には、定期的に電話連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の出された意見は、ミーティングで話し合い、ケアーに反映させている。頻回の電話に悩まれた家族からの相談に対して、入居者の気持ちを察し、家族と話し合っ解決にむけた。何でも言って貰える雰囲気づくりに心がけている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ない、離職がやむをえない場合は、最善の努力をしている。入居者がなんでも言える関係を重視し、配慮した。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や勉強会は定期的に行っている。外部の研修にも参加したいが、参加できていない、参加された方の伝達講習はしている。看取りや自立支援の日々の学びの経験がある。	○	職員各自に応じた研修計画をたてられ、段階的に力をつけていかれる方針を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は地域の同業者との交流は持っていないが、連絡協議会が発足されたので参加し交流したい考えがある。	○	他のグループホームとの交流・研修など積極的に参加でき、ケアの向上、やりがい、業務改善などにつながることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に施設を見学してもらい、入居を決めていただいている。入居後は近所のお友達の面会、馴染みの美容院、キリスト教の礼拝など生活習慣を尊重している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事や会話もできなくなり、入居の継続がむづかしい状態になられたとき、家族の望まれることに沿いながら話し合い、車椅子で食堂に出て食事ができ、会話ができるまで改善した事例がある。支えあう関係をきずいている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人、家族の想いを聞いて、「サービス利用計画書」を作成している。日々の関わりの中で本人の意向を汲み取る努力をしている。(言葉、表情、言動など)又、入居時、面会時に家人と話し、本人、家人の希望を把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時に本人、家族と話し合い、メンバーとも介護計画作成の時点と共に、日々モニタリングやミーティングで情報交換し、介護計画に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングし見直しをしている。本人の状態が変化した場合も、随時見直しを行っている。	○	介護計画の見直しは、安定している場合でも、新鮮な目でケアの情報や気付きを集め、予防的に対応していくため、月1回程度は行う様にして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じ、通院、往診や、美容院への送迎、又、必要であれば家人との外出・外泊への支援も行う。又、重度化した場合や、終末期をどこで看取うかなどの事柄も、本人、家族の意向を入居時に聞き、可能な限りの体制を作る努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関を受診している。受診時の情報も得ている。必要時、他の連携する医療機関に相談する体制もつくられ、家人が同行出来ない時は、家人の同意を得て、代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、本人、家族と話し、入居者の状態変化に伴い、随時主治医、本人、家族、職員と話し合いが持たれている。昨年本人の強い望みに沿って、家族・主治医・事業者を含めた全職員で満足のいく看取りを経験している。ひとりひとりの思いを引き出し、悔いのない介護をしようという意識が深まった		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の関わりの中で入居者のプライバシーを損ねる事の無い様、勉強会やミーティングで随時対応を話し合っている。外部調査員の訪問の際も、入居者に対する対応は良く、責務の理解が出来ていると思われる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、1人1人の生活パターンの把握に努め、それを尊重しながら支援している。時間に沿って強制するのではなく、1人1人の時間のペースで見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じテーブルで楽しく食事が出来る様な雰囲気作りをしている。以前、下膳の際に転倒し起居動作が低下した事例があり、また介護度の重度化もあり、下膳や準備が難しい現状がある。	○	食事のメニューを一緒に考えるなど、出来ることを引き出し、食事の楽しさを一層引き立てる工夫、努力をして頂きたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、毎日入れる体制が出来ている。入居者が入浴したい時間に入れる様、援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活リズムの中に、本人の趣味、楽しみを考えて取り入れ、デイケアで一緒に行事を楽しむ人、歌、碁の得意な人、パッチワークの得意な人など個々に楽しんでもらえる努力をしている。しかし、「役割」を持ってもらう事への支援として、入居者が私ばかりという気持ちがあり促しにくいという事があり充分とはいえない。	○	1人1人の出来る事を見極めながら、意欲を引き出す方法を検討して頂きたい。入居者が、役割を果たす喜びを引き出してほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節毎に、又月1回はドライブ、散策、外食等に出掛けられている。が、「日常的」にはなっていない。	○	本人の意向も聞きながら、短時間でも、戸外に出る機会を増やす努力を行っていただきたい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者1人1人のその日の状態を観察し、見守り方を検討し、日中は玄関の鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。今までに1人知らない間にいなくなった方がおられたが、すぐ近くの畑に居た方と話をされていた。	○	地域の人との連携を日常的に、一層深め、「鍵を掛けない」理念を続けて頂きたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を行っている。しかし定期的に行われていない。	○	地域の協力も得ながら、火災のみでなく、各種の災害に対する取り組みを行って頂きたい。訓練は定期的に行って頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックは毎日されていて、記録されている。水分も時間ごとに声を掛け、摂取して頂いている。自分で水分摂取出来る人は、自室にお茶やポットを用意している。一旦病状が悪化した方にも、出来るだけ食事を摂って頂ける様、工夫、援助がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、入居者の居心地の良い場所となっている。自室にこもる方が少なく、日中ほとんど居間でレクレーションに参加、デイケアに行くなど、楽しんでいる。居間にソファアアがなく、畳の部屋では起居動作が難しい方が利用しにくい。又、必要な部分の手すりが少ない等、の施設面での不便利さがある。	○	設備面での改善で、更に居心地の良い空間を作る努力をして頂きたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の使い慣れた物が置かれていて、利用者もほぼ満足していると思われる。夫婦2人部屋が1部屋あるが、利用者が住み心地の良い様に使い慣れた物が置かれ、快適な生活空間になっている。		